

第9回消費者教育実践セミナー

報告

企業の取り組みを知り持続可能な消費につなげる“学校”の学び

消費者教育支援センターでは、消費者教育を担う小・中・高等学校の教員、地方自治体の消費者教育コーディネーターを対象に「消費者教育実践セミナー」を開催しています。3月27日(金)、品川区立総合区民会館(きゅりあん)で開催したセミナー(一般財団法人パロマ環境技術開発財団、一般財団法人日本産業協会協賛)では、企業による持続可能な社会に向けた取組や学校での授業実践、企業教材の模擬授業の体験などを通して、持続可能な社会につながる消費者教育のあり方について参加者の皆さまとともに考えました。

プログラム

基調講演

「消費者に届けたい企業の取り組み」

(一社)日本経済団体連合会消費者政策委員会企画部会長/(株)ローソン常務執行役員 楯 美和子

実践紹介

「地元の生産者をつなげる消費者教育の実践」

静岡県浜松市立湖東中学校家庭科教諭 岡田 幸子

※実践の内容は5～9ページをご参照ください

教材体験

「内閣府特命担当大臣賞受賞教材の模擬授業」

(株)ロッテサステナビリティ推進部食育推進課 川崎 大輔

教材研究

「消費者教育教材資料表彰企業部門の受賞教材を使ってみよう」

グループディスカッション

「企業との双方向コミュニケーションを取り入れた消費者教育実践を考えよう」

基調講演

楯氏による「消費者に届けたい企業の取り組み」と題した講演では、株式会社ローソンが実施する社会課題の解決に向けた取組が紹介されました。人手不足に対応するため夜間の接客を海外在住の担当者がアバターで担う仕組みを導入したり、過疎化や買い物難民へ対応するため、地域の声を踏まえて書店併設型店舗を展開したりスーパー閉店後の跡地へ出店するなど、地域の暮らしを支える取組を進めていることが説明されました。さらに、災害時に地域住民の支援拠点となる「災害支援ローソン」の設置や食品ロス削減に向けたAIの活用、寄付につながる取組などについても紹介があり、「私たちは、“みんなと暮らすマチ”を幸せにします」という理念のもと、今後も取組を進めていくとのことがありました。



楯氏

教材体験



川崎氏

川崎氏からは、株式会社ロッテでは、売上だけでなく社会課題への対応を重視することが企業の持続的な成長につながるなどの考えのもと、「お菓子の楽しさ」「噛むことによる健康」「安全・安心」の3つの視点を軸に食育活動を展開しているとの説明がありました。本セミナーでは、2025年に内閣府特命担当大臣賞を受賞した教材「エシカル消費プログラム『あなたの「選ぶ」から創る しあわせな未来』」を用いた模擬授業を実施し、参加者がウェブサイト教材にアクセスして、ワークシートに記入するなどの体験を行い、大いに盛り上がりました。



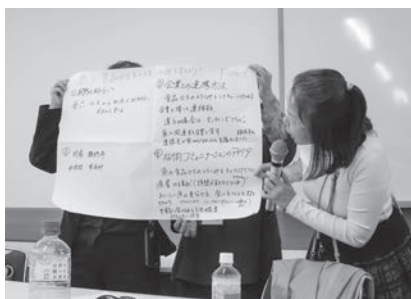
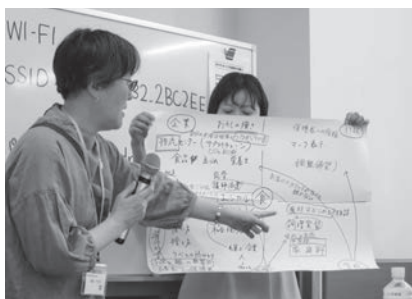
各自のスマートフォンを使用して教材を体験

教材研究

教材研究の時間では、「消費者教育教材資料表彰 企業部門」の受賞教材を全員で体験しました。参加者は興味を持った教材を机に広げ、実際の授業にどのように取り入れるかなどをグループで活発に話し合いました。



グループディスカッション



続くグループディスカッションでは、「企業との双方向コミュニケーションを取り入れた消費者教育の実践」をテーマに、どのような授業を行いたいかについて積極的に意見を出し合い、最後に各グループが発表を行いました。

参加者の感想

企業の取組について

- 企業の取組が興味深く、企業も変わっているのだと新鮮に感じた。探求学習で使えそうだった。
- テレビコマーシャルだけでは発信されない企業の取組を知ることができて大変有意義でした。もっと多くの人に知ってもらえると良いと思いました。

授業実践について

- 授業を通じて生徒が地元企業や世代の違う住民とつながる実践に、岡田先生の熱意を感じました。
- 学校と地域の連携が取れており素晴らしい。生徒が作成した作品も素晴らしかった。

教材研究について

- 企業の教材作成力はすごい。ゲーム教材は楽しいが、楽しさをどうやって学びに結びつけるか考えさせられた。
- 気になっていた教材を実際に体験でき、実現可能なプランを組むことができて良かったです。
- グループワークで多くの人と話し合えて有意義でした。グループワークではしっかりとアウトプットを考えることが大切だと再認識しました。

本セミナーは、企業が発信する情報と私たち消費者がどのように向き合うべきか、改めて考える機会としたいという思いから企画しました。企業がさまざまな工夫を凝らして消費者にメッセージを発信している今、それをどのように受け止め、自らの選択につなげていくかが問われているのではないかと感じています。企業の取組をそのまま受け入れるのではなく、適切な距離感を持って捉える姿勢が、これからの消費者教育には重要です。本セミナーが、参加者の皆さまの今後の実践に向けた手がかりとなれば幸いです。

ご参加
ありがとう
ございました!

